

第8期所沢市高齢者福祉計画・介護保険事業計画 進捗評価表 (計画期間：令和3年度から令和5年度)

1 計画の評価方法

市では、本計画に基づく各種の施策やその効果について、本計画に沿って十分に達成されているかどうか、別紙「進捗評価表」により半期ごとに評価を行っています。

具体的には、主な施策について指標及びそれに対する目標値を設定し、第一に、この指標における目標値を達成しているかどうかを評価にあたっては確認します。

しかし、各施策においては、指標以外の事柄も重要であることに加え、設定した指標のみで評価することになると、指標以外の取組が十分に鑑みられない可能性もあることから、指標以外にも考慮すべき取組などがある場合は、設定した指標の達成度合いを踏まえつつ、それら指標以外の取組も適宜勘案して評価を行っています。

半期ごとに進捗評価を行い、その都度、その内容を所沢市高齢者福祉計画推進会議において報告し、委員の御意見等を踏まえ、改善につなげていくものです。

なお、指標の設定に当たっては、施策の指標を数値で確認でき、その達成度合いを明確に測ることができるものを用いています。

2 計画書における各種施策と評価指標

計画書における各種施策		計画書該当頁	指標設定		SDGsについて
			該当有無	設定数	
各論 1	自立した生活を継続するための取組の推進	51-74	○	12	SDGsとは、平成27(2015)年の「国連持続可能な開発サミット」で採択された、令和12年までに達成を目指す世界共通目標です。17の目標と169のターゲットからなり、経済・社会・環境を調和させながら「誰一人取り残さない社会」を目指すものです。本計画においても、17の目標のうち、主に「3. すべての人に健康と福祉を」、「11. 住み続けられるまちづくりを」、「16. 平和と公正をすべての人に」、「17. パートナーシップで目標を達成しよう」等の目標を踏まえ、施策を実施していくため、本計画の進展によりこれらの目標へ貢献していきます。
	介護予防・健康づくりの取組	55-67	○	9	
	いきがづくり・社会参加の促進	68-74	○	3	
各論 2	住み慣れた地域でその人らしく暮らし続けるための取組の推進	75-118	○	5	
	在宅で安心して暮らし続けるための取組	79-87	○	1	
	認知症と共生する社会の実現に向けた取組の推進	88-95	○	2	
	在宅医療・介護連携の推進	96-100	○	2	
	介護者の負担軽減	101-105			
	状態に応じた住まいや施設の整備	106-115			
各論 3	高齢者関連施策の実施による住みよいまちづくり	116-118			
	地域の課題を解決するための体制づくり	119-132	○	2	
	地域課題・資源の把握、解決策の検討	123-127	○	2	
	担い手の養成と地域資源の開発	128-129			
各論 4	地域の支え合い活動の促進	130-132			
	介護保険制度の安定的な運営	133-166	○	5	

第8期計画の進捗評価表(令和5年度)

施策	計画書 該当頁	評価項目	指標	令和5年度 目標	令和5年度 実績	進捗管理	施策への取組み状況に係る 自己評価
1 介護予防・健康づくりの取組 (介護予防の普及啓発)	57	<介護予防の普及啓発の 目標 その1>	現在、健康づくりや 介護予防のために、 運動や趣味の習い 事をしている人の割 合	68%	62.3%	アンケートを対象者 30,381人へ送付し、回 答16,539人分に基づき 集計を実施した。 回答者のうち、評価項目 該当者数10,311人 ※アンケート対象者:70 歳以上の偶数年齢で、要 支援・要介護認定を受け ていない方	△ 介護予防教室等に参加した人 数は目標未達成となったものの、 地域包括支援センター主催の介 護予防教室では、参加者のニー ズや地域の健康課題に即して多 様な内容を取り上げて介護予防 の普及啓発が推進された。 また、いきいき健康体操教室に ついてはリニューアルし、民間事 業者施設ではなく老人福祉セン ター・老人憩の家全12荘で各1 回、短期集中で開催。民間事業 者施設で行われる介護予防教室 に一定の方が重複して参加して いることが課題となっていたが、 これによりこの課題は今年度は 解消されている。
	57	<介護予防の普及啓発の 目標 その2>	介護予防教室等に 参加した人数	2,200人	1,809人	(内訳) ・介護予防教室(地域包 括支援センター分) 1,643人 ・いきいき健康体操教室 166人	

第8期計画の進捗評価表(令和5年度)

施策	計画書 該当頁	評価項目	指標	令和5年度 目標	令和5年度 実績	進捗管理	施策への取組み状況に係る 自己評価
2 介護予防・健康づくりの取組 (住民主体の介護 予防活動の育成・ 支援(地域の通いの 場の充実))	60	<住民主体の地域の通いの場(1)~(3)の目標 その1> [補足(通いの場)] (1)トコロん元気百歳体操 (2)お達者倶楽部 (3)その他の地域の通いの場	住民主体の地域の通いの場の数	123か所	124か所	【内訳】 ・トコロん元気百歳体操 75か所 ・お達者倶楽部 42か所 ・地域サロン 7か所	△ 住民主体の地域の通いの場の数は目標達成しているが、参加者数については目標に達していないため評価は△とした。 気軽に集える地域の通いの場の充実を図るため、引き続き理学療法士による支援や生活支援コーディネーター等と連携した活動支援を行っていく。
	60	<住民主体の地域の通いの場(1)~(3)の目標 その2> [補足(通いの場)] (1)トコロん元気百歳体操 (2)お達者倶楽部 (3)その他の地域の通いの場	介護予防に資する住民主体の通いの場への65歳以上の参加数	6,000人	5,231人	(内訳) ・トコロん元気百歳体操 1,540人 ・お達者倶楽部 721人 ・地域サロン 94人 ・その他地域包括支援センターが把握している通いの場 2,876人	

第8期計画の進捗評価表(令和5年度)

施策	計画書 該当頁	評価項目	指標	令和5年度 目標	令和5年度 実績	進捗管理	施策への取組み状況に係る 自己評価
3 介護予防・健康づくりの取組(高齢者の健康に関する取組)	64	<健康に関する相談窓口等の周知、体制の推進の目標>	随時対応による相談件数(65歳以上)	925件	518件	健康相談窓口を周知する「ご相談は保健センターへ」のチラシの配布など関係機関の協力のもと周知を図った。	△ 健康相談件数は、目標値との乖離はあるが、スマートフォンの普及等により、情報を得やすくなっていることなども減少の一因と考えられる。気軽に健康に関する相談ができる窓口として、また個々に合った相談ができる場として必要な方に活用してもらえるよう、引き続き周知を図る必要がある。 教室への参加は、健康寿命を延ばすために重要な食生活の見直しをする機会となるので、その重要性の周知啓発を行った。また、「楽しく健康食教室」は、参加者の食や健康を見直す意識を高めるように工夫した結果、前年度より参加者数が増加した。さらに栄養教育に加えて口腔・運動に関する講話を行う「すこやか栄養教室」を老人福祉センター等で実施し、169人が参加している。引き続き、普及啓発に取り組んでいく。
	65	<食を通じた健康づくりについての取組の目標>	介護予防栄養教室の参加者数	250人	197人	楽しく健康食教室(前期・後期)参加者数197人 各教室を周知するチラシの配布などを行い周知を図った。	
	66	<特定健康診査の受診率向上に関する目標>	特定健康診査の受診率	60%	32.2% ※暫定値(R6.3.28現在)	・受診勧奨ハガキ 1回目(9月29日) 43,845通 2回目(12月22日) 34,339通 ・受診勧奨通知 (12月14日) 3,735通	

第8期計画の進捗評価表(令和5年度)

施策	計画書 該当頁	評価項目	指標	令和5年度 目標	令和5年度 実績	進捗管理	施策への取組み状況に係る 自己評価
3 (続き) 介護予防・健康づくりの取組(高齢者の健康に関する取組)(続き)	67	<後期高齢者健康診査の受診者数向上に関する目標>	後期高齢者健康診査の受診者数	16,200人	14,744人 ※暫定値	5月に対象者49,174人に受診券を発送した。	<p>庁内各課と連携し、市独自ポイントを付与する事業を増やした結果、前年度より平均歩数は微増した。</p> <p>埼玉県コバトン健康マイレージ事業の見直しに伴い、令和6年度よりトコトコ健幸マイレージ事業において新たに「ALKOO(あるこう)」アプリにリニューアルとなる。そのため既存事業の参加申込者数の伸びは鈍化した。</p>
	67	<健康への関心が低い人へもアプローチする仕組みづくりの推進の目標>	健康マイレージ事業参加者の1日平均歩数	8,000歩	7,231歩	<p>参加申込者数は令和6年2月末時点で14,738人(令和5年3月末時点の13,798人から940人増加)であり、県内1位の申込者数となった。</p> <p>広報ところざわ2月号や各まちづくりセンター等でチラシの配布やポスター掲示により令和6年度事業のリニューアルについて周知を行った。</p> <p>庁内各課と連携し、「イベント参加ポイント」の対象事業を拡充し、マイレージ事業の参加者に市独自ポイントを付与する事業を実施し、市民の出歩きを促進した。</p>	<p>△</p> <p>令和6年度以降は事業の周知を進め、「ALKOO」アプリでの事業への参加登録を促し、参加者を確保していく。また新たなアプリでの楽しく歩ける新機能を周知するなど、参加者により歩いてもらえる取組を引き続き行う。</p>

第8期計画の進捗評価表(令和5年度)

施策	計画書 該当頁	評価項目	指標	令和5年度 目標	令和5年度 実績	進捗管理	施策への取組み状況に係る 自己評価
4 いきがいづくり・ 社会参加の促進	69	<学びを通じたいきがいづくり(高齢者大学の開講)の目標> →令和4年度から「高齢者大学」が「所沢シニア・アカデミー」にリニューアルしたことから、指標を変更した。(令和4年度第3回高齢者福祉計画推進会議にて報告)	講座を通し今後につながる地域活動を「見つけることができた」または「見つける方法がわかった」と回答した受講生の割合	90%	95.6%	閉講後アンケートに回答した23名のうち、22名が今後につながる地域活動を見つけたことができた」又は「見つける方法がわかった」と回答。 令和5年度参加人数 開講時点:28名 修了時点:26名	シニア・アカデミーは、前年度に比べて申込者が減少したが、講義、地域活動の紹介、生活支援コーディネーターの協力を得ての活動団体の見学、グループワーク等を通じて、受講生がより具体的に地域活動をイメージし、地域活動へつなげるきっかけとすることができた。 高齢者スポーツ大会は、参加者の多くを占め、共催も担う長生クラブの高齢化によりコロナ前のような形での開催が困難なことから、市長生クラブ連合会と協議の上、開催を中止した。 △ 単位長生クラブ数の減少については、高齢化による役員のなり手不足等の要因がある。
	70	<スポーツ・文化活動の支援の目標>	高齢者スポーツ大会参加者数	1,000人	—	開催中止	
	73	<長生クラブの活動支援の目標>	単位長生クラブ数の維持	64団体	53団体	令和5年4月1日時点 会員数 2,899人	

第8期計画の進捗評価表(令和5年度)

施策	計画書 該当頁	評価項目	指標	令和5年度 目標	令和5年度 実績	進捗管理	施策への取組み状況に係る 自己評価
5 在宅で安心して暮らし続けるための取組(緊急時に備えた支援体制)	86	<救急医療情報キットの配布の目標>	救急医療情報キットの累計配布本数	18,140本	18,067本	【参考】 累計配布本数 令和2年度:15,502本 令和3年度:16,605本 令和4年度:17,352本	△ 広報等で周知した12月頃は申込が増えた。 令和6年度以降は、周知に力を入れていきたい。
6 認知症と共生する社会の実現に向けた取組の推進	90	<認知症初期集中支援チームの運営・活用の推進の目標>	認知症初期集中支援チームの訪問支援実人数	40人	51人	初回訪問実人数を計上。	△ 認知症初期集中支援チームについては、目標を上回る積極的な訪問支援が実施された。 認知症サポーター養成講座については、目標値には届かなかったが、昨年度より養成者数の増加を図ることができた。引き続き、学校や事業所等にも講座開催の働きかけを行うなど、養成者数の増加を目指す。また、令和6年度中に市主催のキャラバン・メイト養成講座の開催を目指し、キャラバン・メイトを充足することにより講座の開催回数が増やせる体制を整える。
	94	<認知症サポーターの養成と活動の支援の目標>	認知症サポーター養成講座受講者数(延べ人数)	33,000人	27,976人	開催回数 47回 受講者数 1,822人	

第8期計画の進捗評価表(令和5年度)

施策	計画書 該当頁	評価項目	指標	令和5年度 目標	令和5年度 実績	進捗管理	施策への取組み状況に係る 自己評価
7 在宅医療・介護 連携の推進	98	<在宅医療・介護連携の推 進の目標 その1>	在宅療養に関する情 報を周知する件数	3,000件	6,244件	(内訳) ・パンフレット等配布部数 2,510部 ・HP閲覧件数 3,496件 ・動画セミナー視聴件数 63件 ・市民向け講演会参加者数 175人	○ 各指標において目標達成となっ た。 特に、「在宅療養に関する情報 を周知する件数」に関しては、令 和3年度に作成したパンフレット 「知っておきたい在宅療養」を 使った普及啓発や、市民向け講 演会を通じて、多くの方へ在宅療 養に係る周知ができた。 「絆ネットところ」については、 関係機関と連携して「医療・介護 の連携ツール」として紹介してき たこともあり、徐々にではあるが 新規登録者数等も増加しており、 引き続き、普及啓発に努め る。
	100	<在宅医療・介護連携の推 進の目標 その2>	絆ネットところ活用 件数	13,000件	21,604件	多職種間の情報共有 ツール「絆ネットところ」の 投稿数 21,604件	

第8期計画の進捗評価表(令和5年度)

施策	計画書 該当頁	評価項目	指標	令和5年度 目標	令和5年度 実績	進捗管理	施策への取組み状況に係る 自己評価
8 地域の課題を解決するための体制づくり	126	<生活支援コーディネーター・協議体の目標 その1>	第1層と第2層の情報共有のための会議開催回数	6回	6回	第1層・第2層生活支援コーディネーターの情報交換会を隔月で6回実施	<p>生活支援コーディネーターの会議については、予定通り実施し、日々の業務での困りごとや有用な情報、担い手の創出のためのアイデア等を共有した。</p> <p>社会資源については、年間増加数として目標としていた14件を下回る5件となった。社会資源としての団体の担い手の高齢化に伴い、解散が散見されている。</p> <p>担い手の創出のために所沢シニア・アカデミーを積極的にサポートし、地域へ担い手を送り込むこともできているため、自己評価を△としたものである。</p>
	126	<生活支援コーディネーター・協議体の目標 その2>	生活支援コーディネーターや協議体の活動を通じて把握する地域における社会資源の数	863件	845件	6月～12月に把握済みの社会資源の現状把握・情報の更新作業を実施 年間を通し、新たな地域資源の発掘・団体支援を実施	△ 令和5年度も、高齢者の情報格差への対応や地域のつながりづくりのためにスマホ教室、スマホカフェ、スマホサポーター養成講座を実施したほか、生活支援コーディネーターの活動を紹介する動画を1本作成して取組の周知を行った。引き続き既存団体の支援や新たな社会資源の把握・創出に努めたい。

第8期計画の進捗評価表(令和5年度)

施策	計画書 該当頁	評価項目	指標	令和5年度 目標	令和5年度 実績	進捗管理	施策への取組み状況に係る 自己評価
9 介護保険制度の 安定的な運営 (介護給付適正化 の取組)	160	要介護認定の適正化	点検実施率	100%	100%	市調査員の調査票の点検担当、委託調査員の調査票の点検担当、と分担制にすることによって滞らずに点検することができた。また、全事務職員が認定調査員による研修を受けたことにより担当外でも点検を行うことができるようになり、目標を達成することができた。	要介護認定の適正化及びケアプランの点検については、目標を達成できている。 住宅改修等の点検については、福祉用具2件・住宅改修2件を想定していたが、住宅改修の申請は、改修工事前後の状態を写真と写真で確認しており、今年度は特段、現地確認が必要な申請がなかったため、福祉用具の点検のみとなった。
	160	ケアプランの点検	点検対象事業所	5事業所	5事業所	上半期に2事業所の点検を実施。下半期の10月～12月に3事業所の点検を実施し、合計5事業所の点検を実施し目標を達成した。	医療情報との突合・縦覧点検については、国保連から送付されるデータ件数を多く見込み過ぎて目標設定したもので、点検率としては100%となっている。 介護給付費通知については、費用対効果の観点から実施しなかったことによる経費削減の優位性が勝るものである。
	161	住宅改修等の点検	点検件数	4件	3件	上半期に1件、下半期に2件の福祉用具購入の点検を実施した。	目標設定値と実績値との比較では一部未達成とはなるものの、介護給付費の適正化という本来目的は十分に果たせたものと考えている。(次頁に続く)

第8期計画の進捗評価表(令和5年度)

施策	計画書 該当頁	評価項目	指標	令和5年度 目標	令和5年度 実績	進捗管理	施策への取組み状況に係る 自己評価
介護保険制度の 安定的な運営 (介護給付適正化 の取組)(続き)	161	医療情報との突合・縦覧点 検	点検件数	5,300件	4,490件	国保連から毎月送付され たデータについて、全件 の点検を実施した。	○ なお、第9期計画の進捗評価に おいては、適正化主要事業の再 編に基づき評価項目を改めると ともに、評価指標の設定につい ても見直しを行っている。
	161	介護給付費通知	通知件数	21,000件	—	適正化主要事業の再編 により主要事業でなく なったことから、令和5年 度より発送を行わないこ ととした。	

9 (続き)